２００７年7月2日

２００７年度・公式規則変更内容・決定報

（全８頁）

日本アメリカンフットボール協会
競技規則委員会

アメリカンフットボール公式規則を以下のように変更します。この公式規則変更は２００７年秋季公式戦より適用します。
２００７年度・公式規則変更内容の全文は、下記の通りです。記載は、次の規則に従っています。

① 「篇－章－条」の後の（新規）、（追加）、（変更）、（削除）、（移項）、（移動）等は（　　）内の事項が行われた事を示し、それに続く規則文は新変更文である。なお、新規、追加、変更の各用語は次の原則で使用する。
　新 規：篇－章－条、あるいはその下位の項目の単位で、新規に条文が定められた場合。
　追 加：文の単位で新たに条文が定められた場合。
　変 更：一つの文の中で、条文の変更（単語等の追加を含む）が定められた場合。
なお、新規、追加、変更、削除等が混在する場合は、変更として扱う。

② 下線部は、変更が行われた場合にその部分を示す。削除に関しては削除された部分を≪　　≫で囲み、削除文字上に二重線を引いてある。

③ 新規の条文の発生、および削除に連動した既存の「篇－章－条」およびその下位の項目の番号の変更に関しては、原則として、この決定報に記載していない。

④ 規則変更の中で主要な事項に関しては、従来の規則と変更規則を対比させ解説を加えてある。解説部分は、変更規則文の直後に記述し、その部分を枠で囲ってある。

２００７年度・公式規則変更項目

1-2-1-h　（追加）　フィールド上での宣伝広告は認められない。（例外：（１）シーズン前後の試合においては、試合の名前に関連した後援団体のものは許される。（２）商業組織体が施設の命名権を保有している場合、フィールド上にその名前を表示することは許される。しかし、商業用ロゴは、フィールド・オブ・プレーでは認められない。）

1-2-4-e　（追加）　新聞、雑誌、テレビ、ラジオを含む報道関係者および報道機材を、チームエリアまたはコーチング・ボックスに入れてはならない。また、報道関係者とチームエリアまたはコーチング・ボックス内のチーム関係者とのいかなる手段による会話、交信も禁止される。チームエリアと観客席の間に通り道がない競技場では、チームエリアを挟んだ一方の区域から他方の区域に報道関係者が行き来するための通路をフィールドの両サイドにおいて設けなければならない。

1-3-2-a　（変更）　両チームから出されたそれぞれ６個以下の試合ボールの検査および判定は、試合前および試合中を通じて審判員が行う。グラウンド状況等による試合ボールの使用個数の追加の許可は、審判員が行う。

1-4-4-b　（変更）　フェイス・マスクがあり、かつ４ポイントまたは６ポイント・チンストラップによ

り固定されたヘルメット。チンストラップにより固定されていない場合は、バイオレーションである。
【以下、省略】

1-4-5-o　（追加）　ユニフォームへの付着物。（例外：（１）攻撃側の１名のインテリア・ラインマンが付けた１枚の水分を吸収する無地の白いタオル。このタオルの大きさおよび付ける場所に関しての制約はない。他のプレーヤーがベルトの前面および側面の位置に付けた４インチ×１２インチ（１０ｃｍ×３０ｃｍ）の１人につき１枚の水分を吸収する無地の白いタオル。（２）寒い天候の場合のハンド・ウォーマ）

1-4-9-a　（変更）　試合中は、コーチング《~~および判定~~》を目的として、サイドライン、記者席、プレー場内の他の場所で、テレビの再生装置およびモニター設備を禁止する。節と節との間を含めて《⇐》試合中はいつでも、映画、あらゆる種類のフィルム、ファクシミリ機器、ビデオテープ、写真、文書（絵図を含む）伝送機器、およびコンピュータはコーチが使用したり、コーチングを目的として使用することはできない。

1-4-9-c　（変更）　カメラ、音声装置、マイクロフォン、コンピュータなどのメディアの伝達装置を、フィールド、チームエリアおよびそれらの上空で使用することを禁止する。（参照：２－３１－１）
【以下、省略】

2-25-11　（変更）　Ｂチームの反則に関してのポストスクリメージ・キックの地点とは、キックエンドの地点である。Ｂチームは、罰則の施行後、ボールの所有権を持つ。Ｂチームの反則に対する罰則は、ポストスクリメージ・キックの地点、または反則がポストスクリメージ・キックの地点より後方で発生した場合は、反則の地点から科す。（参照：２－２５－９例外、１０－２－２－ｅ例外３）

3-1-1　（変更）　前半および後半は、キックオフによって開始される。レフリーは、試合開始予定時刻の３分前に、フィールド中央において各チーム最大４名のフィールド・キャプテンと他の一人の審判員の面前でコインを投げ、ビジティング・チームのフィールド・キャプテンの一人にそのコインの表裏を選択させる。後半の開始前に、フィールド・キャプテンはレフリーの下で後半の選択を行う。
コイントスの間、各チームは９ヤードマークとサイドラインの間の区域か、またはチームエリアにいなければならない。コイントスは、フィールド･キャプテンが９ヤードマークから中に入った時に始まり、９ヤードマークに戻った時に終了する。
罰則：サクシーディング・スポットから５ヤード。［Ｓ１９］
【以下、省略】

3-2-2-h　（新規）　テレビ･タイムアウトの後は、両チームがフィールドにいれば、レディ･フォー･プレーからスナップまでは１５秒とする。（例外：フリーキック）

3-2-2-i　（新規）　プレー中に不用意なホイッスルが吹かれ、４－１－２－ｂの規定に基づきダウンが繰り返される場合は、ゲーム・クロックの時間と状況は不用意なホイッスルが吹かれたプレーの前の状態に戻される。戻すべき時間は、現場での最善の方法により決定される。

3-2-5　（変更）　ボールがフリーキックされたときは、ゲーム・クロックはボールがフィールド・オブ・プレーにおいて正当にタッチされた時、またはＢチームのエンドゾーンでＢチームによって正当にタッチされてからゴールラインを横切った時、計時を開始し、ボールが公式規則によってデッドになった時に計時を停止する。スクリメージ・ダウン中は、ボールが正当にスナップされるか、レフリーによる事前のシグナルによって計時を開始する。ゲーム・クロックは、トライの間、節の延長または超過節の

間は動かしてはならない。（Ａ．Ｒ．３－２－５－Ⅰ～Ⅳ）
【以下、省略】

（1） キックオフ時の計時開始

☆昨年は、ボールがフリーキックされる場合は、キックされた時に計時開始となった。

★本年より、ボールがフリーキックされる場合は、ゲーム・クロックは、ボールがフィールド・オブ・プレーにおいて正当にタッチされた時、またはBチームのエンドゾーンでBチームによって正当にタッチされてからゴールラインを横切った時、計時開始となる。 2005年の公式規則に戻る。

3-2-5-a-2　（変更）　負傷したプレーヤーや審判員のためまたはランナーのヘルメットが完全に脱げた場合のレフリー・タイムアウト、およびラジオやテレビのためのタイムアウトの延長の場合。

3-2-5-a-10　（変更）　審判員がライブボールを確保した場合。

3-3-2-a-19　（変更）　ランナーのヘルメットが完全に脱げた場合。

3-3-7　（変更）

ａ．プレーヤーまたはヘッドコーチにより要求されたチーム・タイムアウトは、１分３０秒を超えてはならない。（例外：３－３－４－ｅ－３）

ｂ．タイムアウトを要求したチームのヘッドコーチが、両手をそれぞれ両肩に置くシグナルを行えば、タイムアウトの長さは、３０秒である。このシグナルは、タイムアウトを要求した直後にしなければならない。

ｃ．その他のタイムアウトは、ラジオまたはテレビ・タイムアウトも含めて、レフリーが目的遂行に必要とみなす長さ以上であってはならない。しかし、いかなるタイムアウトでも、負傷したプレーヤーのためならば、レフリーはその長さを延長してもよい。（参照：付録１「フィールドでの重大な負傷発生時の審判用ガイドライン」）

ｄ．１分３０秒のチーム・タイムアウトを取ったチームが１分以内で試合の再開を望んだ場合、相手チームの用意ができていれば、レフリーはレディ・フォー・プレーを宣告する。

ｅ．レフリー・タイムアウトの長さは、それぞれのタイムアウトが生じた状況によって決定される。

ｆ．フィールド・キャプテンは、タイムアウト中に自分または他のプレーヤーが、コーチとサイドライン上で協議を行う前に、罰則の諾否についての選択を行わなければならない。

ｇ．セフティー、トライ、および成功したフィールドゴールの後の休止時間は１分以内とする。ただし、ラジオまたはテレビのために延長してもよい。

4-1-3-n　（変更）　審判員がライブボールを確保した場合。

6-1-2　（変更）　フリーキック・フォーメーション時のボールは、インバウンズ・ライン上またはその間の、Ａチームの制限線上から正当にキックされなければならない。レディ・フォー・プレー後、ボールがティーから落ちた場合、Ａチームはボールをキックして

はならず、また審判員は直ちにホイッスルを吹かなければならない。
ボールがキックされる時は（A．R．　6－1－2－Ⅰ～Ⅳ）：

a．プレースキック時のホルダーとキッカーを除くAチームの全プレーヤーは、ボールの後方にいなければならない。（A．R．6－1－2－ⅤおよびⅥ）［S18］

b．Aチームの全プレーヤーはインバウンズにいなければならない。［S19］

c．キッカーの両側には、それぞれ少なくとも4人のAチームのプレーヤーがいなければならない。［S19］

d．セフティーの後でパントまたはドロップキックを行う場合は、キックチームの制限線の後方でキックしなければならない。ライブボール中の反則に対する距離罰則がプレビアス・スポットから施行される場合は、キック側の制限線が前の罰則によって移動されていない限り、罰則施行は20ヤードラインからである。［S18または他の適切なシグナル］

e．Aチームのすべてのプレーヤーは、レディ・フォー・プレーが宣告された後、一度は両9ヤードマークの間にいなければならない。［S19］

f．フリーキックのダウン中にアウト・オブ・バウンズに出たAチームのプレーヤーは、そのダウン中はインバウンズに戻ってはならない。（例外：この規則は、ブロックされてアウト・オブ・バウンズに出されて、直ちにインバウンズに戻ろうとしたAチームのプレーヤーには適用されない。）［S19］

g．Aチームのプレーヤーは、フリーキックされたボールにAチームがタッチできる資格を得るまでは、相手に対してブロックしてはならない。［S19］

罰則：ライブボール中の反則。プレビアス・スポットから5ヤード。またはプレー後のデッドボールがBチームに所属する地点から5ヤード。またはタッチバックによりボールが置かれた地点から5ヤード。［S18またはS19］（A．R．6－1－2－Ⅶ）

h．Bチームの全プレーヤーはインバウンズにいなければならない。［S19］

i．Bチームの全プレーヤーは自己の制限線の後方にいなければならない。［S18］

罰則：ライブボール中の反則。プレビアス・スポットから5ヤード。［S18またはS19］

（2）キッキングチームの反則に対する罰則変更

☆従来、キック・プレー中のAチームの反則は、スクリメージ・キック・プレーのスナップ時の反則およびキックオフ時のオフサイドのみ、Bチームが罰則をプレビアス・スポットから施行するか、あるいはサクシーディング・スポットから施行するかを選択できた。

★本年より、フィールドゴールを除く全てのキックで、Aチームの全ての反則に関してBチームは罰則をプレビアス・スポットから施行するか、あるいはサクシーディング・スポットから施行するか選択できることになる。6－2－1、6－3－12、7－1－3、7－1－4、9－1－2、9－3－3も同様である。

6-2-1　罰則　（追加）　ライブボール中の反則。プレビアス・スポットから5ヤード、またはプレー後のデッドボールがBチームに所属する地点から5ヤード。またはAチームの制限線から30ヤード前方（レシーブチームの方向）のインバウンズの地点でレシーブチームがプレーを開始。［S19］

6-3-10-c　（変更）　ニュートラル・ゾーンを越えた地点でキックされたスクリメージ・キックは、不正

なキックでライブボール中の反則であり、直ちにボールデッドとなる。

6-3-12　罰則　（変更）　ライブボール中の反則。プレビアス･スポットから５ヤード。またはプレー後のデッドボールがBチームに所属する地点から5ヤード。［S19］

7-1-3　罰則　（変更）　デッドボール中の反則：
サクシーディング・スポットから５ヤード。
ライブボール中の反則：
プレビアス・スポットから５ヤード。
［Ｓ７、Ｓ１９またはＳ２０］
スクリメージ･キック･プレーのスナップ時またはスナップ後のライブボール中の反則：
プレビアス･スポットから5ヤード、またはプレー後のデッドボールがBチームに所属する地点から5ヤード。（ただし、フィールドゴール･プレーを除く）［S19、S20またはS22］

8-3-3-c-2　（変更）　罰則がロス・オブ・ダウンを含む反則をＡチームが犯した場合、トライは終了し得点は認められず、距離罰則は次のキックオフでは科さない。

8-5-2　（変更）　セフティー後は、得点されたチームの２０ヤードラインでボールはそのチームの所属となり、インバウンズ・ライン上もしくはその間でそのチームのフリーキックによりプレーに移される。このフリーキックはパント、ドロップキック、プレースキックのいずれであってもよい。（例外：超過節およびトライの規則）

9-1-2-ａ～s 罰則（追加）　フリーキックまたはスクリメージ･キック・プレー中のＡチームの１５ヤードの罰則：プレビアス･スポットから、またはプレー後のデッドボールがBチームに所属する地点から施行する。（ただし、フィールドゴール・プレーを除く）

9-3-3-a～c 罰則（追加）　フリーキックまたはスクリメージ･キック・プレー中のＡチームの１０ヤードの罰則：プレビアス･スポットから、またはプレー後のデッドボールがBチームに所属する地点から施行する。（ただし、フィールドゴール・プレーを除く）

9-3-4-e　罰則　（変更）　施行基準点から５、１０または１５ヤード。パスがタッチされる前の有資格レシーバー（パサーを除く）に対する反則の場合は、第１ダウン。［Ｓ３８、Ｓ４２、Ｓ４３またはＳ４５］

9-3-5-b　（変更）　キックをブロック、バッティング、またはキャッチしようとする守備側のプレーヤーは、次のことを行ってはならない。
１．味方のプレーヤーの上に足を置く、飛び乗る、または立つこと。（参照：９－１－２－ｑ）
２．味方の上に（両）手を置くことで、高く上がること。
３．味方のプレーヤーによって持ち上げられること、高く支えられること、後ろから押し込まれること、押されること。
罰則：プレビアス・スポットから１５ヤード。［Ｓ２７］

（3） キック時に守備側が味方を押すこと等の禁止

☆従来、キックをブロック、バッティング、またはキャッチしようとする守備側のプレーヤーは、次のことが禁止されていた。

1. 味方のプレーヤーの上に足を置く、飛び乗る、または立つこと。
2. 味方の上に（両）手を置くことで、高く上がること。
3. 味方のプレーヤーによって持ち上げられること。

★本年より、従来に加えて、守備側のプレーヤーは味方のプレーヤーによって、高く支えられること、後ろから押し込まれること、押されること、が禁止される。

10-1-4-例外4　（変更）　公式規則８－３－４－ｃ、３－１－３－ｇ－３。（トライ中または超過節のＢチームの確保後）

10-2-2-e-例外3　（変更）　ポストスクリメージ・キックの施行
ポストスクリメージ・キックの地点は、キックエンドの地点である。ただし、以下のすべての状況を満たすＢチームの反則が発生した場合に限る。（参照：２－２５－１１）
（ａ）スクリメージ・キック中　（ただし、成功したフィールド・ゴール、トライ、超過節を除く）
【以下　省略】

10-2-2-e-例外5　（変更）　フリーキック時のＡチームのオフサイドは、最後にＢチームが確保していた場合、プレビアス・スポットまたはプレー後のデッドボールがＢチームに所属する地点から施行する。

10-2-2-e-例外7　（新規）　スナップからデッドとなるまでの間のＡチームによるライブボール中の反則は、プレビアス・スポットまたはプレー後のデッドボールがＢチームに所属する地点から施行する。（参照：９－１－２および９－３－３）

10-2-2-g-4　（変更）　フィールドゴール・プレー中のライブボール中の反則に対する罰則は、規則に従って施行される。成功したフィールドゴールで得点を得るためには、ＡチームはＢチームのライブボール中の反則の罰則を辞退しなければならない。Ａチームは、Ｂチームのライブボール中の反則に対する罰則を受け入れることにより、成功したフィールドゴールの得点を辞退し、プレビアス・スポットからの罰則施行を選択してもよい。　デッドボール時の反則として扱われるライブボール中の反則、およびフィールドゴールのダウン後のデッドボール時の反則は、サクシーディング・スポットで施行する。（Ａ．Ｒ．１０－２－２－ＸＸⅣ）

【以下は、公式規則解説書の新規項目である。】

Ａ．Ｒ．　６－２－１

Ｖ．Ａチームのフリーキックが、誰もタッチすることなくＢチームの３４ヤードラインでアウト・オブ・バウンズに出た。　判定：プレビアス・スポットから５ヤード罰退しキックを行うか、Ｂチームの３９ヤードでプレーを開始するか、Ｂチームのキャプテンが選択する。

Ａ．Ｒ．　６－２－２

Ｖ．Ａチームが３５ヤードラインの後方でフリーキックのフォーメーションを組んだ。３５ヤードラインでＡ３がキックする時、Ａ２６がＡチームの３７ヤードラインで空中にいた。　判定：Ａチームのオフサイド。プレビアス・スポットからか、またはプレー後のデッドボールがBチームに所属する地点から5ヤードの罰則。（参照：２－１１－２、または６－１－２－ａ）

Ａ．Ｒ．　７－３－６

XI．空中にいるレシーバーＡ８５がボールを確保し、グラウンドに着地しつつあった。最初に左足がグラウンドに触れ、その後、グラウンドのインバウンズに倒れこんだ。グラウンドに触れた時に、ボールがルースとなり、グラウンドに落ちた。　判定：パスの不成功。空中のレシーバーは、キャッチを成立させるには、グラウンドに着地する過程でボールの確保を続けていなければならない。

XII．空中にいるレシーバーＡ８５がボールを確保し、グラウンドに着地しつつあった。最初に左足がグラウンドに触れ、その後、グラウンドのインバウンズに倒れこんだ。グラウンドに触れた時に、ボールがルースとなったが、ボールはグラウンドに触れず、Ａ８５は再びボールを確保した。　判定：キャッチ。レシーバーがインバウンズにいて、グラウンドに着地する過程でボールの確保を失っても、プレーヤーが引き続きインバウンズにいて、かつボールがグラウンドに触れていなければ、パスの成功である。

XIII．空中にいるレシーバーＡ８５がボールを確保し、グラウンドに着地しつつあった。最初に左足がグラウンドに触れ、その後、グラウンドのアウト・オブ・バウンズに倒れこんだ。アウト・オブ・バウンズのグラウンドに触れた時に、ボールがルースとなったが、Ａ８５はボールがグラウンドに落ちる前にキャッチした。　判定：パスの不成功。ボールが確保された時にレシーバーがアウト・オブ・バウンズだったので、ボールがグラウンドに触れたか否かに関係ない。

XIV．レシーバーＡ８５が、Ｂの２ヤードラインで手を伸ばし、ボールを受けてキャッチとなるように努力したが、自らグラウンドに落ちた。Ａ８５がエンドゾーンに落ちるときに、ボールはルースとなりグラウンドに落ちた。　判定：パスの不成功。キャッチする過程でグラウンドに自ら着地しつつあるレシーバーは、グラウンドに当たった時にボールの確保を続けていなければならない。

XV．レシーバーＡ８５は、エンドゾーンの上で空中にいて、パスを確保していたが、空中にいる間に守備側に当たられ、その結果、Ａ８５はグラウンドに落ちた。グラウンドに当たった時に、ボールはルースとなった。　判定：パスの不成功。キャッチに必要なすべての要件が満たされる前に接触を受けた空中のレシーバーは、グラウンドに当たった後もボールの確保を続けていなければならない。

２００８年度・公式規則変更予定項目の解説

２００８年度の公式規則変更として予定している項目は、次の通りです。いずれの項目も昨年、公表したものですが、再掲するものです。

（１）フィールドゴール時のティー使用禁止

現在、フィールドゴールの試みにおいてティーを使用できるが、２００８年秋季公式戦から禁止される。

（２）キッキング・ティーの規格変更

現在、キックオフで使用するティーの高さは、「ボールの最下端からグラウンドまでが最大２インチ（約50mm）」であるが、２００８年秋季公式戦から、「ボールの最下端からグラウンドまでが最大１インチ（約25mm）」となる。

以　上